

【教養課程】 『海外で活躍する日系人歯科技工士の生きざま』

日技認定講師
(東京都歯科技工士会)

中込 敏夫

昨今、海外においての日本人歯科技工士の活躍は目覚ましい。それは、日本の歯科技工士教育の高さはもちろんのこと、やはり手先の器用さや仕事に対する姿勢等、多くの要因がそうさせていると考えられる。しかしその中でも、日本人の持つホスピタリティーの高さは世界最高水準であり、これが多くの国で認められた大きな要因であると私は考えている。

そのような中で日本人としてではなく、あくまでも現地の人間として、日系人の歯科技工士がそのホスピタリティーをいかに発揮している場所が存在する。何も無い無から有をつくり、さらにそれを大きく展開しようとしているそのエネルギーからは、多くを学ぶことができるのではないだろうか。

彼らの生きざまを通しながら、日々の仕事に対する姿勢や組織のあり方を考えたいと思う。

【専門課程】 『総義歯製作の基本』

日技認定講師
(東京都歯科技工士会)

中込 敏夫

無歯顎患者におこなう補綴治療の一つに、総義歯治療がある。総義歯治療の目的は、無歯顎患者の口腔内環境を再構築し、より健康で実りある人生を送っていただくことである。そしてその目的達成のため「良い総義歯作り」がその出発点となり、そこからリハビリテーションが始まることになる。

良い総義歯作りとは、端的に言えば「もの作り」であり、そのためには「設計図」が必要となる。特に総義歯のように基準となるべきものが大きく失われている場合、明確な目標点が必要になるであろう。そのためには診断用義歯の活用が有効となる。

診断用義歯の形態を作り込み、最終的な総義歯の「形態と機能の構築」を図ることで「総義歯の設計図」を作製することができ、歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士の最終目標を「立体的な情報」として確立することができよう。

本講演では、良い総義歯作りのための「診断用義歯」の有効活用について、歯科技工士がどのように関わっていくのかを述べたいと思う。